

# 月刊 monthly DAY

新企画&現場で役立つ  
レク情報など満載!

## 特集1

家庭や社会での役割を創出!

# 「参加」の具体的な プログラムと 訓練の工夫

## 特集2

座り過ぎを改める!  
座位症候群を防ごう!  
〜脳足トレーニング〜



## 施設紹介

# 「中重度認知症ケア」が 充実しているデイ

- 小さな家 ちとせ はる きずな 千歳・東・絆
- あかねヶ丘ケアセンター 認知症対応型通所介護

別売 11月号  
対応版

お役立ち  
ツールCD

定価600円  
(+税、送料別) 発売中

制作者 石井美千子  
(タイトル: 読書)



# 人間だもの

## 第8回 「ボケ」か「認知症」か？

「認知症」という言葉が誕生してまだ10年足らずです。10年前までは「ボケ」や「痴呆」と言われていました。なのに最近では「ボケ」がなぜか差別用語になると聞き、耳を疑いました。あるいは、「私を認知症と呼んで！ボケとは呼ばないで」という人もいます。知らない間に「ボケ」は肩身が狭い言葉になりました。

私は頑固なのか「認知症」という新作造語にまだ慣れません。「認知機能障害」なら分かるのですが、省略して「認知症」という短縮型になっています。よく「ニンチが進んだ」と言いますが、この言葉は本来の意味で考えれば「認知機能が改善する」という良い意味合いなのですが、「認知症」となると反対の意味になるのです。

なぜ「ボケ」をわざわざ病気にしたのか。その理由のひとつは、薬を投与する必要が生じたからでしょう。実は、病気に昇格した途端に巨大な薬の市場が生まれました。ボケが「医療化」されたのです。薬を使うからには病気でないといけないし、そのためには病名が必要なのです。そこで「認知症」という言葉が誕生したのでしょう。たしかに若年性認知症の方を見ていると、間違いなく病気であると感ずます。しかし、90歳の陽気なおばあちゃんが10分前のことを忘れる様子を見ていると、私にはとても病気に見えません。この場

合は「ボケ」と表現した方が相応しい。

認知症と単なる物忘れは別物です。日常生活に支障を来す状態ではじめて「認知症」となります。ただ、両者には連続性があります。認知症の前段階の病態をMCIと呼びます。またひとつ病気が増えましたね。そもそも「認知症」は何十もの病気の総称です。そのなかでも四大認知症と呼ばれる「アルツハイマー型」「レビー小体型」「前頭側頭型」「脳血管性認知症」などの総称であることを忘れてはいけません。

認知症ケアに医療が占める割合はどれくらいでしょうか？ 医者の中には90%が医療、つまり薬だと考えている人もいます。一方、私は5%以下だと感じています。

みなさまは、どれくらいの割合だと思われますか？



長尾クリニック院長  
長尾 和宏 ながおかずひろ

1984年東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局、1995年兵庫県尼崎市で開業、外来診療と在宅医療に従事  
日本ホスピス在宅研究会理事、日本慢性期医療協会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授(高齢総合診療科)、「病院でも家でも満足して大往生する101のコツ」など著書多数